



10月・内定への道

①

封筒とはさみを持った手が、少し震えていた。「緊張する」とつぶやく声も。二十七日、安城特別支援学校(安城市桜井町)に市内の「デンソーエアシステムズ」から採用試験の結果を伝える封書が届いた。高等部三年の前田愛実さん(モ)は恐る恐る封書を開き、中から用紙を取り出した。「合格」の文字。「わっ、やったー、やったー! 内定もらいました」。笑い声ははじけた。

佐藤陽一さん(心)も、担任の林正記教諭から文具製造関連会社の内定通知を手渡された。佐藤さんは「入社したい」と思って頑張ってきた。実習がうまくいったので自信はありましたが、うれしいです」と、かみしめるように話した。

生徒の頑張りを見つけてきた林教諭の顔も、ほころんだ。一年次から授業で取り組んだこと、二、三年次に挑んだ企業実習。「こんなに頑張っている」という思いはあっても、採用試験が近づくと緊張し、落ち着かない様子の生徒が増えた。「ここまで頑張ってきたんだから、普段通りでいけばいいよ」と励ました。

「一年生の時からの努力が実った。家族も喜んでくれるね」と肩をたたいた。

喜ぶ二人に、進路指導主事の説田智洋教諭は「これほどともううれしいことです。おうちのひとめちやく



内定通知に喜ぶ前田さん(右)を祝福する佐藤さん(中)と林教諭(左)=安城市の安城特別支援学校で

「まだ内定が出ていない人や、実習がうまくいかなかった人もいる。その人たちの思いも考えて行動しよう」

「まだ内定が出ていない人や、実習がうまくいかなかった人もいる。その人たちの思いも考えて行動しよう」

に希望者が集中し、倍率が上がった」と説田教諭。「これまでの感覚なら『大丈夫』と言えた生徒が悔しい思いをしている。例年に比べ、かなり厳しい。ハードルが上がっている感じがある」と説明する。

企業への就職を目指し、一緒に頑張ってきた今年の高等部三年生二十人の仲間。前田さんは「早く皆にも良い通知が届いてほしい。それまで、喜びは心の中にしまっておきます」と、気持ちを抑えるように話した。

コロナ禍による採用活動のずれ込みで、全員の結果が出るのは年明けになる見込みだ。企業への就職がかなわなかった生徒は、就労移行支援事業所などへの進路を考えていくという。

(四方さつき)

◇ 次回は、就職後の支援や職場開拓などの動きを取材します。

良い知らせ 皆に届いて